日建連表彰2024

第65回BCS賞

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

選定理由【選考委員】有賀 隆・小堀哲夫・賀持剛一

一乗谷朝倉氏遺跡は、かつての中世城下町都市遺構が田園の中に良好に残された、類稀なサイトミュージアムである。その玄関口に建つ復元館建築は、歴史遺跡研究の学術拠点として、また、身近な歴史を知り学ぶ市民・来訪者の集いの場として、既存資料館の対面に計画・建設された。えちぜん鉄道のローカル駅、田んぼ、そして、周囲を取り囲む低い里山が重なる田舎の風景とともに、今までもこれからも変わらないであろう悠久の時間を感じさせ、低層の切妻が連続した建築の佇まいが田園の水面に浮かび上がる様は、どこにでもありそうな風景でありながら、日本人の心に響く美しい原風景を新たに創出している。特筆すべきは、建設予定敷地北側で「石敷遺構」が発見され、遺構展示室の追加・新設の設計変更がされたことである。そのため、遺構を避けた基礎計画や大空間の構造変更をしながらも、文化庁、県文化財課など、多くの関係者が協力しあい、外観の全体性を保ち、当時の姿のままほぼ完全な状態で、現地保存、展示されることとなった。施工においては、現場での基礎、柱位置の精査が、基礎掘削時の重機作業では、五センチメートル単位で掘削作業が行われ、その都度位置を確認するきめ細かな作業を実施した。その結果、遺構を最大限保存することが可能となり、建築主・設計者・施工者が一体となっての工夫と努力がなされたことも評価された。福井の豪雪地域に立地するため、屋根、壁の外装はチタン亜鉛合金で葺かれ、塗装を一切行わないことで、耐候性を高めるとともに維持管理の負担軽減を実現している。特に谷樋になる部分においては、漏水、雪のすが漏れなど二重三重の対策を講じながら、大切な展示物や遺構を守っている。鈍い金属の外観は、硬質で無機質な印象を与えるが、同時に、蔵のような存在にも見える。一方で、内部空間は、ガラスの回廊から見える景色とともに、復元館のトップライト、石敷遺構に通る風、県産スギの香りによって、とても明るく、開放的である。内装に使われた県産スギは、丸太の状態から管理し、一枚一枚の色合いを確認しながら、意匠的にどこに使えばよいかなど吟味した結果、余すことなく使われているのだという。

都市・地域計画の観点からも空間資源＋歴史文化財の一体的な継承と利活用を担う公共的「文化インフラ」の整備として極めて重要な施設であり、中世都市遺構の研究の拠点として大きな進展に寄与しつつ、今後福井県民の身近な歴史文化遺産への愛着とともに、新幹線福井駅開業の効果によって、国内外から多くの人びとが集う場として期待される、優れたプロジェクトである。

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2024年で65回を数えました。

1. 朝倉館原寸再現室外観
2. 螺旋階段
3. 遺構展示室
4. 朝倉館原寸再現室内観

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館　概要

- 所在地　福井県福井市安波賀中島町8-10
- 建築主　福井県
- 設計者　㈱内藤廣建築設計事務所、㈱センボー建築事務所、㈲金箱構造設計事務所、㈱森村設計
- 施工者　㈱見谷組、永和住宅㈱、石田建設工業㈱
- 竣工日　2022年1月21日

- 敷地面積　5,285㎡
- 建築面積　2,889㎡
- 延床面積　5,285㎡

- 階数　地上2階、地下1階
- 構造　鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2024 第65回BCS賞受賞作品》　石川県立図書館／エスコンフィールドHOKKAIDO／Otemachi One／OKI本庄工場H1棟／春日台センターセンター／京都東山計画（山荘 京大和・パーク ハイアット 京都）／ 高槻城公園芸術文化劇場／ 東京ミッドタウン八重洲／ところざわサクラタウン／那須塩原市図書館　みるる／福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館／MIYASHITA PARK／明治大学創立140周年記念　和泉ラーニングスクエア／ 屋島山上交流拠点施設「やしまーる」／読売テレビ新社屋